

療養場所の違いに応じた認知症者のエンドオブライフケア充実に向けての調査研究
－COVID-19流行の影響も踏まえて－

研究分担者 大河内 二郎 介護老人保健施設竜間之郷 施設長

研究要旨

COVID-19 感染症流行下における利用者に対する説明手法を作成し、すべての新規利用者に対する説明を行った。老人保健施設の利用者の利用目的は在宅復帰、他施設入所待ち、看取りなど多岐に渡っており、かつ利用者の理解度も様々である。従って利用者の個別性に配慮した感染症についての説明の実施が望ましい。

A. 研究目的

COVID19の流行により、施設におけるエンドオブライフケアの対応方法は感染管理の目的から変更せざるを得ない事態となっていた。そこで今回は老年医学会と全国老人保健施設協会が作成した、「新型コロナウイルス感染時の家族への説明」をもとに、老人保健施設における高齢者への説明を介護施設での入所時のすべての対象者に説明文および説明手法を作成し、それに基づいて利用者説明を行った。今回はすべての新規入所者において研究方法に示した内容を含む説明を行い、その実施における課題を抽出することを目的とした。

B. 研究方法

利用者への説明内容は以下の内容を含めた。

1. 施設での感染症発症を完全に抑制できない可能性
2. 発症者が出た段階での在宅復帰や他の施設への移動は困難となること
3. 高齢者で様々な疾患を持っているために重症化しやすいこと
4. 施設での感染対策
5. 感染時の入院
6. 感染症に罹患して重症になった時の治療法の選択
(倫理面への配慮)

今回は説明方法およびその実施のため利用者の個人情報収集は行っていない。

説明にあたっては、利用者の個別性に配慮しつつ

行った。

C. 研究結果

老人保健施設の利用目的は、在宅復帰、他施設入所待ち、看取り等様々である。従って説明方法も利用者の利用目的に併せて個別に対応することが必要となった。

D. 考察

今後はこれらの説明文をもとに、施設利用者の利用目的や、理解度について検討していきたい。

E. 結論

COVID-19感染症下における利用者説明手法について検討した。利用者への説明は利用目的、理解度等の個別性に配慮した方法で、すべての新規利用者に対して行うのが望ましい。

F. 研究発表

1. 論文発表
 - 1) 大河内二郎. 老人保健施設における新型コロナウイルス感染症クラスター発生の報告. 日本老年医学会雑誌. 2021;58(2):312-4.
 - 2) 大河内二郎 介護施設における COVID-19 対策 Aging and Health 2021 (4) 14-17

G. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし